

(第1面)

産業廃棄物処理計画書 令和元年 6月 17日 和歌山県知事 殿 提出者 株式会社 丸山組 住 所 和歌山県海南市冷水25-10 氏 名 代表取締役 田淵 利幸 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 073-482-5425 廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社 丸山組
事業場の所在地	和歌山県海南市冷水325-10
計画期間	平成31年4月1日 ~ 令和2年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	6. 総合工事業
②事業の規模	元請完成工事高 1,800百万円
③従業員数	31人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	建設工事 → 分別 → がれき類 木くず 廃プラスチック → 再生処理業者に委託 汚泥 → して再資源化 建設混合廃棄物

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
<p style="text-align: center;"> 総括責任者(常務取締役) → 現場責任者(建設事業部長) → 現場担当者(担当者) </p>			
《役割》			
委託契約締結 事業全般の統括		作業手順・教育指導 安全管理、帳簿管理	マニフェスト作成 廃棄物分別・保管
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度(平成30年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組) 受注によって大きく左右されるが、過去数年間の傾向から産業廃棄物の種類ごとの排出量を予測する。		
② 計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組) これまで実施した取組を継続する。		
産業廃棄物の分別に関する事項			
① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) がれき類、木くず、廃プラスチック、 建設混合廃棄物の別に分別保管する。		
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) これまでに実施した取組を継続する。		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（平成30年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 自ら直接再生利用、自ら中間処理した後再生利用は行わない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 自ら直接再生利用、自ら中間処理した後再生利用は行わない。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（平成30年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 自ら中間処理は行わない。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 自ら中間処理は行わない。		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項		
① 現状	【前年度（平成30年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙の通り
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t t
	(これまでに実施した取組) 自ら埋立処分又は海洋投入処分は行わない。	
② 計画	【目標】	
	産業廃棄物の種類	別紙の通り
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t t
	(今後実施する予定の取組) 自ら埋立処分又は海洋投入処分は行わない。	
産業廃棄物の処理の委託に関する事項		
① 現状	【前年度（平成30年度）実績】	
	産業廃棄物の種類	別紙の通り
	全処理委託量	t t
	優良認定処理業者への処理委託量	t t
	再生利用業者への処理委託量	t t
	認定熱回収業者への処理委託量	t t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t t
	(これまでに実施した取組) 委託基準に従って、産業廃棄物を委託できる業者を選定し、書面による契約を実施している。	

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙の通り	
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) これまでに実施した取組を継続する。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

産業廃棄物の種類	R1年度 H30年度		R1年度 H30年度		R1年度 H30年度		R1年度 H30年度		R1年度 H30年度	
	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
がれき類										
排出量	2000t	2087t	240t	249t	1t	1t	141t	140t	30t	32t
自ら再生利用する量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
自ら熱回収する量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
自ら中間処理する量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
自ら洋投立入処分する量は	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
全処理委託量	2000t	2087t	240t	249t	1t	1t	141t	140t	30t	32t
優良認定処理業者への委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
再生利用業者への委託量	2000t	2087t	240t	249t	1t	1t	141t	140t	30t	32t
認定熱回収業者への委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t
認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への委託量	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t	0t

建設混合廃棄物

廃プラスチック

木くず

汚泥



